

第8回安曇野市環境審議会 会議概要

1	会議名	第8回安曇野市環境審議会
2	日時	令和5年3月17日(金)午後1時30分から午後3時30分まで
3	会場	本庁舎 4階 大会議室
4	出席者	環境審議会 植松晃岳 会長、樋口嘉一 副会長、横田耕太郎 委員、 中林嘉世子 委員、中沢清一 委員、畑中健一郎 委員、今井隆一 委員、 岡江正 委員、堀井勇司 委員、降旗幸子 委員、原弥生 委員、磯野康子 委員 (株)環境アセスメントセンター 浜口
5	市側出席者	市民生活部 山田部長 環境政策担当 百瀬補佐、丸山係長、高山主事、古屋主事
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0名
8	会議概要作成年月日	令和5年3月31日

協 議 事 項 等

【進行表】

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 報告事項
(1) 第2次安曇野市環境基本計画(2023改定版)について
4. 協議事項
(1) 安曇野市環境行動計画(2023~2027)(修正案)について
(2) 環境基本計画 令和4年度 年次報告(中間)について
5. その他
6. 閉会

【議事】

報告事項(1) 第2次安曇野市環境基本計画(2023改定版)について

<環境課から説明>

<質疑・意見>

(副会長) 環境基本計画の概要版を示す際、市長のあいさつ文を適宜提示することを希望する。
あいさつ文は全体像を表す貴重なメッセージであると思う。

(環境課) 多くの機会、市長のあいさつ文を公表していきたいと考えている。

(会 長) ゼロカーボン宣言の内容は、どのようなものか。

(環境課) 内容は、環境基本計画88、89ページ「第5節 2050年脱炭素社会の実現を目指して5-1ゼロカーボンシティ「安曇野」ロードマップ」の内容を中心に宣言する。

(会 長) いつ頃宣言するのか。

(環境課) 3月23日(木)を予定している。

(会 長) 環境基本計画に、ゼロカーボン宣言文は載せるのか。

(環境課) 宣言文という形では載らない。内容自体は、88、89ページに記載される。

(会 長) ゼロカーボン宣言と環境基本計画は一体であると思う。環境基本計画の中でゼロカーボン達成のための具体的な方針が示されている。ゼロカーボン宣言の内容は重要であるため、内容を確認したい。

(環境課) 承知した。環境審議会の委員にも、ゼロカーボン宣言の内容を提示する。

協議事項(1) 安曇野市環境行動計画(2023~2027)(修正案)について
<環境課から説明>

<質疑・意見>

(委 員) 実施内容の枠に年度ごとの目標数値を記載しているが、数値目標は実施内容ではなく、目標そのものである。実施内容部分に数値目標を記載するのであれば、括弧内に数値目標を記載したほうがよいと思う。

(環境課) 表現の仕方を考える。環境基本計画の中で、目標値が分かるように示していく。

(委 員) 「No. 13 小中学校における環境教育を推進する。」について、環境指標に「出前講座回数 10回/年」とある。市内の小学校(10校)に一回ずつ出前講座をすれば、10回は達成されるが、中学校に対しても出前講座を実施するということがよいか。

(環境課)

出前講座という形でないが、小中学校から依頼を受け、今までも対応をしてきた。出前講座といってもいろいろなやり方がある。10回以上を目標に、今後行動していく。

協議事項(2) 環境基本計画 令和4年度 年次報告(中間)について
<環境課から説明>

《各ワーキンググループでの審議》

<評価・意見>

【グループA】

(No. 1)

- ・①について、自然観察会の人数の数値目標について、今回は目標値に達していないため達成状況がBとなっているが、天候、感染症の流行などの人為的でない物事が影響し目標値に至らなかった場合は、数値に拘らなくてもよいと考える。
- ・自然観察会の参加人数を増やすことも大切ではあるが、シンボル種やレッドリスト種の保護活動啓発に繋がるように、内容(質)も高めるように意識してほしい。

(No. 2)

- ・①について、自然観察会や特定外来生物駆除活動などのイベント時に、積極的にリポーターについて周知するべきである。
- ・広報で特定外来生物の駆除を積極的に呼び掛ける。駆除活動の回数を増やす等努めてほしい。

(No. 13)

- ・②について、しゃくなげの湯への松枯れ材の薪提供について、なぜ薪提供量が目標に達しなかったのか理由が書かれていない。また、2.Doの92.1 m³と3.Checkの92.8 m³で数値が異なる等により評価できない。

(No. 14)

- ・①～②について、あづみの里山市（イベント）の開催結果だけでなく、どのような人が安曇野材を購入したか、どのように活用されたかが分かる具体的なデータを提示してほしい。
- ・①について、市場への流通や安定した供給体制の構築を研究していくのではなく、実際に構築してほしい。

(No. 15)

- ・①について、なぜ里山学びの環プロジェクト会議が2回しかできなかつたのか理由を記載してほしい。また、4.Actionに記載の内容は結果であり展望ではない。評価できない。
- ・達成状況がBであるのに改善点に具体的な記載がない。

(No. 16)

- ・①について、3.Checkに記載の課題（希少動植物への配慮、守るべき松林の範囲検討）に対する展望が4.Actionに記載されていない。課題を展望に反映させていただきたい。
- ・3.Checkと4.Actionの繋がりが見えにくく評価できない。

(No. 21)

- ・①について、サルの行動範囲が広がり、箇所ごとの対応が必要になっているが、4.Actionに箇所ごとの対応策を検討する等記載が必要ではないか。
- ・②について、ニホンジカ、ニホンザルの具体的な頭数や大型獣の内訳など具体的な内容を提示してほしい。

(No. 25)

- ・②について、他行政や他事業と連携し、地下水の涵養量増加に努めていただきたい。

(No. 26)

- ・①について、雨水貯留施設は現状12基であり、予算の関係もあると思うが、基数の増加を検討していただきたい。

【グループB】

(No. 3)

- ・臭気指数規制対象事業所への改善対策指導が点検・評価がEであるのに、改善で変更の必要性が無いというのはおかしいと思う。
- ・広報等を活用した法律規制の内容の周知や、公害監視員による巡回、監視は継続して取り組みを進めてもらいたい。

(No. 4)

- ・点検・評価の達成状況は全てAであるが、更に目標を高く持って取り組みを進めてほしい。補助金内容の詳細な説明も必要であると思う。移住定住の促進も重要である。
- ・空家相談会、講座、空家空き店舗見学会については、内容を検証して今後一段の工夫をしてほしい。

(No. 17)

- ・集落営農維持のために重要であり、後継問題も解決していかなければいけない。やり方に間違いがなくても内容を検証してより良き方向に改善していく必要があると思う。

(No. 18)

- ・継続して取り組みを進めてもらいたい。

(No. 19)

・制度を利用することでどんなメリットがあるのか分からない。根本的な必要性を説明しなければいけないと思う。制度の分析が必要である。

・制度の内容をしっかりと把握して、農家に周知してほしい。

(No. 20)

・子どもが作る体験をすることがさらに重要だと思う。地域の素材を生かしてここでしかできない魅力などを伝える努力が必要であると思う。

・継続して取り組みを進めてもらいたい。

(No. 22)

・計画にはもっと具体的な内容を記入したほうがいいと思う。農家だけでなく地域の人に協力していただくことも大事である。事業面積も拡大してほしい。

・もっと発信をすることも考えなければいけないと思うが、継続して取り組みを進めてもらいたい。

(No. 23)

・緑のカーテン事業とリンクした活動も計画したらどうか。景観の意識を高める取組みは重要である。景観のまちづくりの視点が大事である。目標の人数のとらえ方は検証が必要である。

・景観のまちづくり事業は、対象者や目的が何かも重要である。

(No. 24)

・景観づくりの講座の中身も精査する必要があると思う。公共の屋外広告物でさびたものを見かけるケースがあるので、撤去を進めてもらいたい。景観は観光の収入源にもなり得るのでとても重要である。

【グループC】

(No. 5)

・事業所の課題について究明してほしい。

・家庭用生ごみ処理機、コンポスターに関する補助金があることを知らない人が多いので、回覧板で回すなど、周知を広げてほしい。

(No. 6)

・実施内容とその効果についてデータを分析してほしい。

・市は現状を把握できていない。すべての事業者がとは言えないが、ほとんどの事業者は、専門の産業廃棄物処理業者に委託をして、廃棄物を回収してもらっている。社員が4人の事業者すらも、産業廃棄物処理業者に委託をして処理していた。事業所で生じる一般廃棄物を、市の施設に直接持ち込む事業者はほとんどいないと思う。一緒くたに事業者をひとまとめにし「ごみの分別、減量化、資源化をしっかりと行ってください」とお願いしても、事業者の立場としては、専門家に任せて処理をしているので、すでにしっかりと行っていると感じ、市からのお願いは響かない。一般廃棄物を市の施設に直接持ち込む事業者に対して、問題意識を持ってもらうためには、もう少し現状、実態を把握してほしい。そうでなければ、事業系一般廃棄物の量は減っていかない。どのような事業者が持ち込んでいるのか、どのように分別しているのか分析してほしい。

・事業系一般廃棄物のなかには、アパートででる一般廃棄物も入っていると思う。

・「事業系ごみの減量に関しては、達成できる見込みは厳しい。」とまで記載すると、事業者の協力が得られにくくなると思う。産業界を敵に回すような表現であるため、お願いをする主

体を絞って分析してほしい。このような表現だと、分別、減量化、資源化の対応を修正してほしい方（一般廃棄物を市の施設に直接持ち込む事業者）に市の願いは届かない。広報する場合も「事業者の皆さん」と記載すれば、大手の事業者は読むが、きちんとやっていると思うだけである。実際に一般廃棄物を市の施設に直接持ち込む事業者には届かず、直らないと思う。

(No. 7)

- ・継続してください。

(No. 8)

- ・今までの活動を総括して独自の環境マネジメントシステムを構築してください。

(No. 9)

- ・第2次安曇野市環境基本計画（2023改訂版）の温暖化対策の施策として進めてください。

(No. 10)

- ・第2次安曇野市環境基本計画（2023改訂版）の温暖化対策の施策として進めてください。
- ・本庁舎の屋上にも太陽光発電設備を設置してはどうか。太陽光発電設備の導入は重点施策でもあるので、市が率先して姿勢をみせたほうがいいと思う。

(No. 11)

- ・継続してください。
- ・苗を配布した市施設向けに、緑のカーテンの育て方について学ぶ機会（講座）を設けてはどうか。ただ植えるだけでは、緑のカーテンの省エネ効果はない。

(No. 12)

- ・第2次安曇野市環境基本計画（2023改訂版）の温暖化対策の施策として進めてください。

(No. 27)

- ・地域公共交通の役割を確認しさらなる展開を進めてください。

<質疑・意見>

(委員) 2023年から2027年の間も同様にPDCAシートを回していくことになるかと思うが、実施内容が、前年度のAction（改善）を反映させたものになっているか確認できる仕組みにしてほしい。毎年、Actionが次年度につながっているのかがわからない。

(環境課) 前年度のActionに対して、どのように行動するのが分かるような仕組みを考える。

(委員) ゼロカーボン宣言の内容は既に決定しており、市長が宣言するという事か。

(環境課) そうである。

(委員) 内容の中に「化石燃料に頼らない交通手段を選択し、環境負荷の少ない持続可能な暮らしに転換します。」とあるが、環境負荷の少ない持続可能な暮らしへの転換は、交通手段の選択だけでなく、すべての取り組みに関わることである。交通手段の選択だけに、環境負荷の少ない持続可能な暮らしへの転換を結びつけるのはどうかと思う。

(午後3時30分 議事終了 閉会)

【今後の予定】

- ・4月21日 第1回環境審議会